

様式第8号 避難器具の概要表記載要領

- | | |
|-----------------|--|
| ① 名 称 | ・当該防火対象物の名称を記入する。名称未定の場合は、仮称又はその時点での通称名を記入する。 |
| ② 所 在 地 | ・当該防火対象物の所在地を記入する。 |
| ③ 用 途 | ・消防用設備等を設置する防火対象物全体の用途を記入する。用途が2以上あるものについては、主たる用途から順次3つまでを記入する。 |
| ④ 階 数（階層） | ・建築基準法施行令第2条により記入する。 |
| ⑤ 敷 地 面 積 | ・同上 |
| ⑥ 建 築 面 積 | ・同上 |
| ⑦ 延 べ 面 積 | ・同上 |
| ⑧ 主 要 構 造 部 | ・全体の構造を建築基準法第2条より選択する。 |
| ⑨ 区 分 | ・防火対象物の工事について該当するものを選択する。
・防火対象物の当該新築・増築等の工事が建築確認申請を要する場合、消防同意年月日及び消防同意番号を記入する。 |
| ⑩ 階 別 | ・当該防火対象物のすべての階（塔屋等を含む。）を、階の下のものから順次記入する。ただし、既存の建物で、避難器具を部分設置又は移設するときは、当該階等必要な階のみを記入し、その他の階の記入を省略することができる。 |
| ⑪ 床 面 積 | ・建築基準法施行令第2条により記入する。 |
| ⑫ 用 途 | ・当該階の用途のうち主たるものを記入する。 |
| ⑬ 収 容 人 員 | ・消防法施行規則第1条の3に定められた方法により算定した人数を記入する。 |
| ⑭ 有 窓 ・ 無 窓 | ・当該階が有窓階である場合は「有窓」、無窓階である場合は「無窓」、地階である場合は、「地階」と記入する。
無窓階・・・・・・・・消防法施行規則第5条の2に規定する階
有窓階・・・・・・・・無窓階、地階以外の階 |
| ⑮ 階 段 の 数 | ・当該階に係る階段の数を記入する。 |
| ⑯ 減 免 数 | ・階ごとに消防法施行規則第26条等で減免することのできる避難器具の個数を記入する。 |
| ⑰ 設 置 数 | ・階ごとに設置する避難器具の個数を記入する。 |
| ⑱ 避 難 器 具 の 種 別 | ・様式第8号備考2により記入する。 |
| ⑲ 保 安 措 置 | ・保安措置の方法を記入する。（例）転落防止柵 |
| ⑳ 避 難 器 具 の 種 別 | ・消防法施行令第25条第2項第1号の表にあるものから該当するものを選択して記入する。当該防火対象物に設置される避難器具等の種類が4種類を超える場合は、当概要表をさらに添付（必要部分のみ記入）するものとする。 |
| ㉑ 型 式 番 号 | ・設置する避難器具等の検定型式番号又は(財)日本消防設備安全センターの型式認定番号等を記入する。 |
| ㉒ 設置場所等の状況 | ・避難器具を設置する場合の用途、場所他様々な状況を簡潔に記入する。 |
| ㉓ 開口部の大きさ | ・避難器具等を設置する部分の開口部の縦及び横の大きさを記入する。 |
| ㉔ 腰 高 | ・床面から、避難器具をセットして使用する部分の開口部の下端までの高さを記入する。 |
| ㉕ 操 作 面 積 | ・避難器具等の取付け部の付近において、避難器具等を使用可能な状態にするための操作に必要な面積を記入する。 |
| ㉖ 固 定 位 置 | ・避難器具等の取付け位置を記入する。（例）床面、窓枠等 |
| ㉗ 固 定 方 法 | ・避難器具等の取付け方法（固定方法）を記入する。（例）アンカー止め等 |
| ㉘ 固定部材にかかる設計荷重 | ・避難器具等を設置するにあたっての設計荷重を記入する。（単位 N） |
| ㉙ 固定部材の許容応力 | ・避難器具等が設置される部材側（上記㉖）の許容応力を記入する。（単位 N） |

避難器具の概要表

様式第8号

防火対象物の概要									
①名称	〇〇〇ビル			②所在地	〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号				
③用途	事務所・店舗			④階数(階層)	地上 4 階 地下 階 塔屋 1 階				
⑤敷地面積	932.8 m ²		⑥建築面積	501.2 m ²		⑦延べ面積	1970.3 m ²		
⑧主要構造部	耐火構造・準耐火構造・その他 ()								
⑨区分	新築・増築・改築・既存・その他 ()								
	消防同意年月日	H6・4・1			消防同意番号	第 〇〇〇 号			
避難器具の概要									
⑩階別	⑪床面積	⑫用途	⑬収容人員	⑭無窓該当	⑮階段の数	⑯減免数	⑰設置数	⑱避難器具の種別(個数)	⑲保安措置
1	456.6	事務所 住居	50	有窓	1			は()・袋()・緩()	
2	496.1	店舗	90	無窓	1		1	は(1)・袋()・緩()	
3	496.1	店舗	90	無窓	1		1	は()・袋()・緩(1)	転落防止柵
4	496.1	店舗	90	無窓	1		1	は()・袋(1)・緩()	同上
塔屋	25.4							は()・袋()・緩()	
								は()・袋()・緩()	
								は()・袋()・緩()	
								は()・袋()・緩()	
								は()・袋()・緩()	
⑳避難器具の種別	避難はしご			緩降機			垂直式救助袋		
㉑型式番号	第 〇〇 ~ 〇 号			第 〇〇 ~ 〇 号			第 〇〇 ~ 〇 号 第 ~ 号		
㉒設置場所の状況 (用途、構造等)	店舗南側窓面			同左			同左		
㉓開口部の大きさ 縦×横(cm)	100×100			120×75			120×75 ×		
㉔腰高(cm)	70cm			90cm			90cm		
㉕操作面積(m ²)	0.8×0.8=0.64m ²			1×1=1m ²			1.5×1.5=2.25m ²		
㉖固定位置	窓枠			壁面			床面		
㉗固定方法	専用金具			ボルト・アンカー			アンカー打		
㉘固定部材にかかる 設計荷重(N)	〇〇〇 N			〇〇〇 N			〇〇〇 N		
㉙固定部材の 許容応力(N)	〇〇〇 N			〇〇〇 N			〇〇〇 N		
その他									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 避難器具の種別(個数)欄は、「は」は金属製避難はしご、「袋」は救助袋、「緩」は緩降機を表し、避難器具の種別の後の()内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。